

「十三夜の月 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

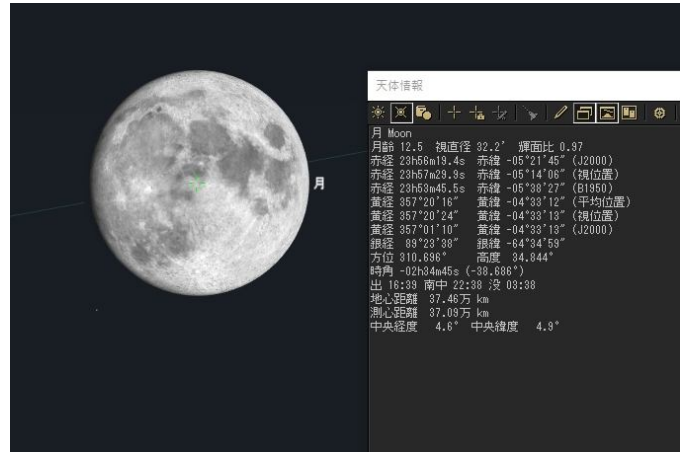
田中 千尋 Chihiro Tanaka

「十三夜」は「旧暦の13日の月(新月から13日目の月)」なので、満月にはなり得ない。なぜわざわざ満月前の月を愛でる風習が定着したのか不明だが、とりあえず夜空を見上げる人は多いだろう。そして月を見つけて「あれ?十三夜って、満月じゃないじゃん!」とちょっとがっかりしたりする。



(調布染地夫人撮影)

しかし、各地で「十三夜を祝う会」のような催しが行われているのも面白い。写真は東京郊外の「深大寺」で行われた「十三夜の会」の様子だ。北軽井沢同様、薄い雲がかかっている、月ははっきり見えなかったようだ。この写真には、手前に満月のようなものが2個写っているが、よく見るとこれは月ではなく、深大寺の住職さんの頭のようだ。月に「高層雲」がかかっていただけに、「高僧」が現れたとかナントカ言っている人がいたとか、いないとか……。しかし、実に楽しそうな雰囲気、私も行けばよかった。



この日の月は月齢 12.5 で「満月」ではなかったが、「輝面比」は約 97% と、パッと見は満月だった。北軽井沢でも夜半に雲が晴れて、明るく美しい「十三日月」が見えた。



(武蔵野夫人撮影)

この写真も美しい。私はこの写真を見ただけで(ヒントなしで)、撮影地を「湯河原よりも少し熱海よりの高台」と特定した。当たりだった。月光環を伴った月とその反映、雲や斜面の影が実に美しい。